

## 情操教育と藝術教育

主幹 倉橋 惣三

藝術教育とは近來我國に於て恰も一種の流行語のやうに社會一般に互つて廣く稱へられてゐる言葉である。そして教育の一新方面を發見したかのやうに騒がれてゐるやうであるが、これは何れも左程に騒ぐ程の新しい問題ではないのであつて、只教育者が幾分この方面の必要を感じ、目覺かけて來たと云ふに過ぎないのである。

藝術教育とは何である？ 思ふに一般がこの言葉に對して有つ見解に似て而も非なる非常な相違ある二つの使ひのを發見するのである。

其の一つは藝術といふ言葉を遊戲氣分、道樂氣分、たわむれ、冗談のやうな意味で取扱つてゐる傾向であつて、もう一つは藝術といふものを極めて嚴肅壯嚴な心持に解つての使ひ方である。

吾國に於ては、どちらかと言へばこの第一の意味に用ひられてゐる場合が多く、隠居が骨董いぢくり、娘が三味線や長唄の稽古をするのと一般のたわむれ氣分である。それによつては人生の軽い氣樂な方面は味ひ得るけれども、眞面目な嚴肅な方面の心持を味ふ事は出來ないのである。

これと異つて同じく藝術といふ名で稱へられてゐても、ベトーヴェン、レンブラン等の藝術は實に嚴肅壯重、恐ろしい程の重々しさで我々の生活にせまつて來るのである。

芝居は大きな藝術であるけれども、我國に於ては演る者も觀る者も一般に之を大仕掛の茶番のやうに解してゐるから、

それは一つのたわむれの如き位置におかれてある傾がある。併し外國のオペラ等は観客を樂ましめると言ふ事よりも人間の魂を高く向上せしめるといふ事を目的として行はれてゐるものが多く、同じく藝術といふものゝこの二つの差違程大きなものはないのである。されば吾人は藝術教育といふ言葉に對して以上の二つの意味のいづれに解すべきであらうか。

非藝術的な、無味な從來の教育に倦んで、所謂藝術教育が旺に提唱されるに至つた原因は何であるか、思ふに從來の教育はあまりに智的に偏し、情味、うるほひ、趣き、和ぎ等を失したる人間生活に遠いものとなつてゐたからである。智的教育はあくまで明瞭正確を尊ぶものである。然し明瞭であり確實であることは人間の生活を機械的ならしむる力を持つてゐる。生活を乾燥無味に導く力を有つてゐるのである。人間は畢竟人間である。情味、和樂の中に生き度い生物である。茲に反動として所謂今日言ふ藝術教育の必要が起つて來たのである。又從來の教育は單に智的であつたといふに止まらず、どこまでもそれが常識的、平凡的、便宜主義的の性質を多くもつてゐた。教育をうけることは賢くなることであるといふことであつた。而し單に賢くなるといふ事だけを目的とするならばまだ安全な方であるが、之を便宜的に、何とか世の中の際が出来るやうにとか、或は教育さへしておけば生活に困るやうな事があるまい、といふ風な誤謬の下に出發した考へも尠くなかつたのである。

小學校令は「生活に必要な智識及び技能を授くるを以て目的とす」といつてゐる、之は國民としての義務を穩かに盡して行けるやうに育て上げよといふことを示してゐるものであるが、然しあまりにこの言葉に囚はれて、一方に偏し過ぎたるが爲に、あるいは向上、崇高、偉大等の深味ある生活が特に缺けてゐた事は免れないのである。この反動として生れて來た今日の藝術教育とはいかななるものであらねばならんか、如何なる意味に解すべきであらうかといふことは實に重大なる問題である。

藝術を人生にうるほひ、情味を添へる緩和劑と解したならそれは實に軽い氣分を味ひ得る、寧ろ娛樂に近いものとなる

が、之を人間を向上せしむる刺戟劑と見るならば實に肩のいたくなる程の敬虔な氣持に壓迫されるのである。この二つの意味のいづれより見ても藝術教育は過去のあまりに常識的な、あまりに便宜的なる無味の教育より開放されて新しい生氣ある境裡に入らうとする點に於て一致してゐる。

平原を旅行する旅客は平凡的、便宜的、常識的である。勞する事は少ないけれども、どこまで行つても仰ぐものがないといふ點から遂に倦怠を生ずるのである。そして人間はその倦怠にいつまでもたへ得ないでついに焦燥するのである。その時眼前に屹として聳ゆる連峰の雄姿を發見する時旅客はその偉大なる姿に壓せられて駭きの目を睜るであらう。そして過去の平凡なる行程から急に開放せられるのである。この山岳は即ち藝術である。偉大なる藝術に觸れた時人間の魂は大きな壓迫を感じると共に、それは次第に淨化されて行く。そして窮屈な智的の生活から外れて空高く飛躍し、次第に向上下るのである。藝術教育とは如上の意味をもつものでなければならぬ。現在では單に智的に偏したる教育生活に倦怠を生じたる結果、この生活からのがれて、もつとのびやかな、うるほひある、情趣豊かな趣味の教育を求め、實に和い氣分に浸り度いと希ひ、これを藝術教育と言つてゐるが、これだけではのびやかなる階調の生活にまで延び得たといふに過ぎないのである。互ひに面白く可笑しく暮らせるいふに過ぎないのである。同じく開放されたといふものゝ以上二様の人の心に及ぼす結果には非常な大きな差違を見出すのである。吾人はこの後者を以て藝術教育といふ名を冠する事は適當でないと思ふ。藝術教育とは何かもつと他のものでなければならぬ。藝術教育と對比して今日一般に言ひ行つてゐる所謂「藝術教育」は「情操教育」と言ふ方が適當であらう。然し情操教育とは如何なるものであらねばならぬか、その考察は他日に譲り、茲では情操教育に關する問題は暫く措き、一般が藝術に對して持つ見解及び藝術教育とは如何なるものでなければならぬかと言ふ概略に就て少しく述べ筆を擱くことにしやう。

世には自分が持つてゐない、自分が到底達する事の出来ない高い藝術に接する時、その藝術を自分のひくさまで引き

下けて批判を下し、それでゐる平然としてゐる人がある。世の中にはそんなに高いものがある筈がないといふ信條を以て、要するに大したものではないと断定して仕舞ひ、若し自分の持つてゐるものと違つたものを見出すと、向ふを間違ひと定めてしまふ質の人である。この種の人と共にある偉大なる音楽を聴いた後『如何でした？』と質問して試る。その答は『結構でしたね』とくるか或は『大したもんぢやありませんね』とくるかであらう。『結構でしたね』といつても、それは自分がその高い藝術を解した上での答ではなくて、自分の低さにまで引下けての言葉である。もう一つの答は自分のわからないものは、向ふが間違ひであると決めての言葉である。宗教の話などを聞くときに一ばんよくこの種の人を見る事が出来る。

次には如何なる偉大な藝術に接しても直ちにその藝術に容易に乗つて仕舞ふ人である。この種の人はある偉大な繪畫とか音楽とかの藝術に接してゐるその時間だけはたしかにその魂は向上されてゐるに違ひないのである。然し一度その時間が経過して仕舞へば自分は元の姿にかへつてゐるのに氣がつかないで、別の時までも矢張り己れは高い人間になり了はせられた氣でゐる人である。丁度富士山の頂上をきはめた人が下山して後も尙乃公は富士山より五尺高いと威張つてゐるやうな滑稽さがある。然しこの無邪氣な幻覺は自分を高め行く経路として差支ない事であらう。

第三にはある高さの藝術を解し得る人が、自分は何かしら高くなつたやうに氣持がし度い爲に、ものを見下けなければならぬやうな氣持になる人である。つまり見下ける物がなくては己れの場所にひげめを感じるのである。それが爲に繪畫や音楽等の藝術に何等の經驗をもたない人のもとに行き、自分の見下けるものを求めるのである。この種の人是非常に傲慢に見ゆるものである。

一體山岳雄峰は登る爲に存在するのか、仰ぐ爲に存在するのかといふことは問題である。若しそれが頂上を窮めることによつて價值あるものとすれば、あの宏大無極の蒼空は吾人に何らの價值なきものとなるであらう。たれか天に上つてそ

の高さを知つたものがあるであらうか。私の爲には山は仰ぐべく非常な價值を持つてゐる。高大なる山の麓に達し「ア、世には實に高いものがあるものだなあ」と感ずると同等の嗟嘆は崇高なる藝術を見上げる時に出づるのである。藝術の極致は人間の心に影響して謙遜の美德を培ふものである。吾人は眞の藝術教育とはこの意味に於ける藝術教育であり度いと思ふのである。そして、只單に藝術教育をして人生に裝飾を與へる程度のものとして考へるならば、それは道樂教育、たはむれ教育に近づく危険がある。若し道樂氣分たわむれ氣分で作る教育を藝術教育と解したなら、眞の藝術の問題を研究するに際して非常な邪魔をするのである。眞に人間を向上せしめるものをのみ藝術教育とは言ひ得るのであらうと思ふ。(文責在記者)

## 擴張か充實か

K M 生

義務教育延長を實施せよと叫ぶ教育者經世家の聲は漸く當局者の頭腦に反響してその必要を認めに至つた。來るべき第四十七議會は最も重要な問題の一として取扱ふであらう、結構なことですが、持つて下さい。徒に空疎な形式上の整備擴張ばかりに焦慮したとて何にもなりません。極度に弛緩した、行詰りの極にまで達してゐる今日の國民教育を、單に年限を延長したばかりで我教育界の進歩だと思つたらそれはさんでもない間違のもとでしやう。刻下の急務は教員の素質の向上と、教授訓練の緊張とを圖ることではあるまいか。空つぽの風船玉はふくらませばふくらまず程内側の空虚が見透かされるものです。